

ヨーロッパの個性あふれるポーランドのまちを訪ねる

「サッカー欧州選手権」で盛り上がる開催4都市を紹介

2012年、ポーランドでUEFA欧州選手権開催!

サッカーが盛んなヨーロッパで、最も盛り上がるスポーツ大会のひとつ「UEFA欧州選手権」が来年6~7月にポーランドで開催されます(ウクライナとの共催)。ポーランドの開催地は、今回紹介するワルシャワ、ヴロツワフ、グダンスク、ポズナンの4都市。大会開催期間中、開幕戦が行われるワルシャワをはじめ、各地でヨーロッパ各国/地域の代表チームによる熱い戦いが繰り広げられることでしょう。



① WARSZAWA

ワルシャワ

ワルシャワ旧市街

「北のパリ」と称えられた華麗なる都

世界遺産の旧市街、ショパンの足跡を訪ねる

ポーランドの首都ワルシャワは、中央にヴィスワ川が流れ、かつては「北のパリ」と称えられた美しい都でした。第二次世界大戦の攻撃で破壊された旧市街。ワルシャワの人たちは、これを「レンガのひび割れひとつに到るまで」と言われるほど、忠実に再建しました。1980年にワルシャワの旧市街は、ユネスコの世界遺産に登録されましたが、それは歴史的価値ではなく、「街の復興にかける市民の不屈の熱意」によるもの。世界でも唯一の例です。

石造りの建物が並ぶ旧市街。色鮮やかで装飾が施された壁、そして動物をあしらったかわいらしい看板、旧市街を歩いても、とてもそれが建て直された姿だとはなかなか気が付きません。旧市街広場のカフェでのんびりしたり、ギャラリーやアンティークショップをほしごしたり、レストランで美味しい料理を味わったり、過ごし方はいろいろ。ぜひ優雅で華麗な「北のパリ」にタイムスリップしてみたいはいかがでしょうか。

ワルシャワはまた、音楽家ショパンが活躍した町。その足跡は至る所に残されています。まずは、愛用のピアノをはじめ、貴重な資料が保管されているショパン博物館へ。そこからは、旧市街の王宮広場へ向かう約1キロの通称「王の道」を歩きましょう。途中、ショパンゆかりの場所が点在しています。



ショパン博物館が入るオストログスキ宮殿

アクセス

ヨーロッパ各地から数多くフライトが飛ぶ。国際列車でもアクセスできる

「Heart of Europe」と呼ばれ、地政学的、そして文化的にも東西ヨーロッパの架け橋として歴史を歩んできたポーランド。そこには個性あふれる都市がたくさんあります。世界遺産や美しい街並み、そしてかわいらしいお土産やリゾートも。魅力たっぷり、今だから訪れたいポーランド。ホスピタリティーあふれる誇り高きポーランドの人たちがあなたを待っています!



② GDAŃSK

グダンスク

ポーランドの「海の玄関口」は「自由への玄関口」でもあった

バルト海に面したグダンスクは、まさにポーランドの「海の玄関口」。古くはハンザ同盟の一員として栄え、今でも重要な港湾都市です。またポーランドを民主化へ導いた自主管理労働組合「連帯」が生まれたのはここ。グダンスクはポーランドの「自由への玄関口」でもあったのです。

町のメインストリート、ドゥウーガ通りには中世貴族の館が軒を連ね、広場には名産の琥珀を売る露天商やカフェが並び、いつでも観光客で賑わっています。また郊外には、世界遺産にも登録されているマルボルク城が。中世に活躍したチュートン騎士団の拠点で、ヨーロッパ最大のゴシック様式の建物は必見です。



グダンスク旧市街

ちょっと足を伸ばして

リゾート地「琥珀海岸」で琥珀採りに挑戦!

リゾート地として人気のポーランド北部のバルト海沿岸は「琥珀海岸」とも呼ばれ、世界でも有数の琥珀の産出地として有名です。毎年夏に各地で開かれるのが、琥珀採りの世界選手権。「バルト海の恵み」琥珀をゲットできるチャンスです。グダンスクの海岸でも開かれます。



美しい琥珀

アクセス

ワルシャワから空路または鉄道で。ドイツまたは北欧からも空路で直接アクセスできる



マルボルク城



③ WROCLAW

ヴロツワフ

コスモポリタン精神息づく「千年都市」

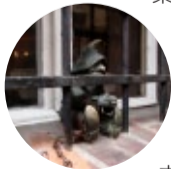
かわいらしい小人がお出迎え

ポーランド南西部シロンスク(ドイツ名:シレジア)地方の中心として栄えたヴロツワフは、1000年以上の歴史を誇ります。町を流れるオドラ川には100以上の橋が架かり、その様子はさながら水上都市のよう。モンゴル人やチェコ王国、ハプスブルク帝国、プロイセン王国などの支配を受けたヴロツワフは、さまざまな民族の影響を受けたことで、コスモポリタンな精神が育まれてきました。町を歩くと、さまざまな建築様式の建物や異なる宗派の教会を見ることが出来ます。

2006年世界遺産に登録された百年記念会館は、20世紀初頭のドーム型鉄筋コンクリート建築として歴史的に貴重な建物。ナポレオンとのライプツィヒの戦い百周年を記念して建てられ、イベント会場に利用されるなど、今でも現役です。



百年記念会館



ヴロツワフは「小人のまち」としても知られています。町の至る所に小人のオブジェがあり、その数なんと200体以上! まちを歩けば、ひょっこりと小人に出くわすことでしょう。また毎年11月末から開かれるクリスマス市も人気です。

アクセス: ワルシャワから空路または鉄道で。フランクフルトなど、ドイツからも空路や国際列車で直接アクセスできる

ちょっと足を伸ばして

陶器の町ポレスワヴィエツでおみやげ探し

ポレスワヴィエツは、ポーランドきっての陶器の町。ここで作られる陶器は、すべてハンドメイド。素朴でかわいいデザインが日本でも人気を集めています。毎年8月には陶器祭りが開かれるので、要チェックです。



アクセス: ヴロツワフから列車で2時間弱



④ POZNAŃ

ポズナン

ポーランド王朝誕生の地

ルネッサンス芸術薫る旧市街をまち歩き

ポーランド西部のポズナンは、初代ポーランド王朝誕生の地。ワルシャワとドイツのベルリンの中間に位置することから、ポーランドとドイツを結ぶ交易や文化交流の中心地として栄えてきました。その名残が国際見本市会場。ヨーロッパでも草分け的存在で、年間を通じてさまざまなジャンルの見本市が開催されています。またポズナンは、多くの教育機関が集まる学園都市としても有名です。

ポズナンでまず訪れたいのは、旧市街の中央広場に立つ市庁舎。ルネッサンス様式を今に伝える装飾は見事です。中央の時計塔は、毎日正午になると、ポズナンの守り神として伝えられる2頭の牡山羊が現れるからくり時計で観光客を楽しませてくれます。広場のまわりには小さな建物が並び、その様子はまるで童話の世界に迷い込んだかのように。ポズナンの旧市街はコンパクトなので、まち歩きにピッタリです。



広場から市庁舎を見る

アクセス

ワルシャワから空路または鉄道で。ベルリンなど、ドイツから国際列車で直接アクセスできる



Move Your Imagination

ポーランド政府観光局 www.poland.travel

